

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームえんがわ
(ユニット名)	月
所在地 (県・市町村名)	和歌山県岩出市畑毛108-2
記入者名 (管理者)	久保 貴史
記入日	平成 22年 2月 5日

別記第1号様式(第4条関係)

自己評価票

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「当たり前にしたい事が、当たり前出来る場所」を理念としている。		なじみのある地域の中で、認知があっても人としてあたりまえの感情を出し生活できるよう支援に取り組む。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1日1日、又瞬間をその人の今にあわせ、当たり前の生活が送れるよう、様々な工夫をしながら支援に当たっている。		ホーム全体としてではなく、個別の生活タイムにあわせて行けるよう取り組みを行う。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	2か月に1回運営推進会議の機会を持ち、質疑応答や取り組み内容を報告する事で理解を得ている。		皆が見やすい場所へ理念を掲げ、家族や他者向けセミナーの開催を開き理解に努める。ホームでの行事等を幅広く地域へ広報すると共に共同参加で親交を深める。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常の散歩や買い物近隣で行いながら、対話やホーム理解を深めてゆけるよう努めている。		自治会や近隣で行う掃除等へ積極的に参加、協力する事で、近い存在であることの理解と協力を今後も継続していく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域への行事や活動へ積極的に参加する。		月間や年間行事を設け、近隣のかたに参加して頂き、交流の場を持つ事で互いの親睦に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>今後は地域ボランティアやサークル等互いに協力出来る事を探し、活動の場を検討する。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>定期的に自己評価や外部評価を実施する事で、質やサービス改善に繋げる。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1度、地域の方や福祉センター、ご家族の方々を交え、運営推進会議を実施している。</p>	<p>意見や苦情等は真摯に受け止め、回答困難な場合は次回までに改善又は報告を行う事で、サービス向上に繋げていけるよう今後も継続する。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の主催する研修会や行事に参加し、質の向上に努めている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>一部職員の研修会への参加などを行っているが、職員全員に周知出来ていない。</p>	<p>適時勉強会や申請書類に関わる場を設け、利用者様の権利を最大限守る支援に取り組む。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待が見過ごされる事がないよう注意を払っているが、勉強会の開催は出来ていない。</p>	<p>関わる全ての関係者間でストレスが過度にならないようメンタルケアを行い、併せて介護力を見極めアドバイスをしながら防止の徹底に努める。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できる限りわかりやすい説明を行い、理解と納得が得られるような対応を実施している。	
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	都度意見や不満、苦情がでた場合は早急に内容をまとめ協議の場を持ち書面に残している。	利用者様が様々な思いや苦情等を不安なく職員に表せるよう、伝えやすい場の提供と環境整備に努める。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、各居室担当者がお手紙での情報や状況報告をしている。また、お小遣い帳を作成し、随時家族様に確認してもらうようにしている。	ご本人からの手紙やはがき等作成して頂き同封していきたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を2か月に1度設け、それ以外での意見、苦情は書面化した上で都度対応報告の上反映している。	気遣う事なく意見や不満を表して頂けるよう、ホーム内での窓口や意見箱の設置を検討する。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回全体会議の場を設け、意見交換を行っている。	自由な発想の中で、モチベーションアップの為、活発な意見交換の場を増やす。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	適時適切な人材確保に努め、できる限り希望にそえるような体制を取っている。	時間枠にとらわれる事なく、職員間の連携のもと、柔軟な対応を随時心がけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>具体的には実施できていない。</p>	<p>今後は定着した関係性作りにも力を注ぎ、利用者様の混乱を最小限にできるような体制作りに取り組んでいく。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>自主的な研修参加や定期的な研修への積極的な参加を推進し、スキルアップの場を提供している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のホームへの見学、研修参加時に他のホームの方との交流をはかりホームへ持ち帰り、全体に伝達し、サービスの質の向上に努めている。</p>	<p>地域での集会や研修会等へ積極的に参加する事で、他業者との交流の場をつくりネットワークを広げていけるよう取り組む。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>適時面談を行い、改善や軽減にあたっている。適時、親睦会などを開催し、ストレスの軽減を図っている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		<p>具体的に指示、指導する事で向上心を持ち、役割や立場をしっかりと認識できるよう取り組んでいく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人様や家族様、ケアマネ様に見学に来て頂いたり、面会に行かせてもらった際に抱えている不安や、ホームに対する希望など十分に傾聴させて頂くよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>話しやすい雰囲気や相談室を設けることで、気兼ねなく意思確認ができるよう努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>話された内容をよく聞き、思いに寄り添う事で、必要なサービスを検討し、必要であれば他機関への連絡調整を行う。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>おためし入居制度を実施する事で、不安なくサービスが開始できるよう支援に当たっている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人様を常に中心とした支援の中で、望む事、出来る事、出来ない事を相互に話し合い関係作りにあたっている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	不安がみられたり希望時には面接を行い、家族のメンタルケアに繋げるよう関係作りを行っている。		家族会を設け、他の家族様との交流の場の提供と、ホーム全体で本人様を支えていけるよう更なる信頼関係の構築に努めたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には、本人様の様子をお伝えし、本人様と家族様の時間を大切にさせていただくよう努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人との面会や外出、お手紙のやりとりの場を設けている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事時など、テーブルの席の配置など配慮し、孤立しがちな方には職員が仲介したりしてコミュニケーションの場の提供を図っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院され一旦退居されても定期的に面会し、利用者や家族とコミュニケーションを取るようになっている。		退去されてもホーム内の状況報告や行事案内をお知らせする等の他、適時に相談窓口としての取り組みを行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ひとりひとりに担当をつけ、かかわりを持ち、言葉の中や表情から本人様の意志をくみ取れるよう努めている。うまく言葉にできない方には行動や表情から本人本位に立てるよう努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>居室を個別性に応じた環境に整備し、変化を出来るだけ少なくするように努める。家人や親しい人からの情報収集を行い職員間で共有する。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>バイタルサイン、食事量、排便チェックなど項目別に記録し、一日を通して本人様の状態を周知出来るよう表にして統一ケアにつなげている。</p>	<p>センター方式の導入を検討し、関わる支援者全員で共有し支援にあたる。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>定期的、又は適時必要なカンファレンスを持ち計画作成にあたっている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間ごとに見直し、著しく変化の見られた時には変更作成にあたっている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々ケア担当者がケースを記録に残し、カンファレンスで気づきや実践内容の検討を行い、計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や通院、自宅への付添等を含め様々な支援を可能な限り行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している			今後は地域資源をどんどん活用しながら充実した支援にあたりたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			必要な情報やサービスの幅を広げるためにも、積極的に研修や協議への参加をしていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			地域密着サービスとしての特性が活かされるよう、ホームとしてできる事を増やしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>週ごとにユニット別往診体制を持ち、身体状況の把握、異常時には連絡指示体制を実施。希望があれば希望医への受診も支援している。</p>	
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>精神科医とも関係を築き、必要な方に対して往診もして頂いており、認知症の症状緩和の相談やアドバイスも頂いている。</p>	
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>常勤の看護職員を配置しており、オンコール体制を取っている。</p>	
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院中にも担当者やケアスタッフが医療機関へ伺ったり、家人との連絡調整を密に行う事で支援にあたっている。</p>	
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>文書や計画書をもとに定期的な話し合いの場を持ち、方針の共有に取り組んでいきたい、又予定である。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>現在、左記事項に関して準備を行っている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	居宅の状態、部屋の状態をよく聞き取りし、普段使い慣れている家具や道具などを持ち込んでもらうことによりダメージの緩和をはかっている。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声掛けのトーンや口調、対応には注意を払い、記録等を皆の目に触れる場へ置いたままにしたり、特定できるような個人への言動はさける。		認知症状のある中で、プライバシー確保の徹底はどこまでできるのか、都度職員間で協議し課題として取組んでいく必要がある。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の感情や思い込みを先に出すのではなく、わかりやすい説明と簡単な選択肢を用いながら支援にあたっている。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の月間予定表はあるが、その人に着眼点を置き、時間の流れを共有できる支援を実施している。		食事や入浴時間、起床、臥床、散歩等好きな時に行動できるよう、時間の枠を作らず、自由な雰囲気作りをしていきたい。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの理美容店や量販店へ同行し、希望時に外出できるよう支援している。		現在数名の方のみ対応となっている為、ホーム全体の取り組みとして検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	十分な食事支援ができるよう模索中であり、準備、片付けは共同での作業を行っている。現在はクックチルであるが、週一回は皆で作る事が出来るよう食事支援日を設けている。		日々あたりまえの日課として自然に行えるよう支援にあたりたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	制限のない環境が望ましいが、認知症状の状態をみながら居室での飲食や喫煙は制限がある。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	様々な可能性を重視した協議を行い、パターンシートの作成や個別のパット使用を検討し支援にあたっている。		重度や心身の状況で変化しやすいが、気持ちよく排泄できる支援を継続していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在各日や時間制限があり、希望時に沿った対応は出来ていない。		曜日や時間にとられない支援に取り組んでいきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別に応じ布団やベッドの決まりはなく、使い慣れた物を使用して頂く事で安心感を与え静かな空間で安眠を促すよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な事、好きな事を探し、日曜の中で盛り込み、日々の役割として行えるよう支援している。花の水やりや畑づくり等様々な事を提供している。		個人の楽しみ、役割を探しながらADLの低下予防と生きがいづくりを支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを一部所持している人もいるが、全体の取り組みとしては実施できていない。		お小遣い帳をつけてもらったり、金銭管理を支援する事で、能力低下予防と金銭に対する執着心を軽減できるような支援にあたる。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩には適時外出できるよう見守り体制をひいている。		近隣の協力も取り入れながら、安全、安心な環境づくりを強化していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月ごと、時節ごとに予定をたてたり、希望を聞きながら支援にあたっている。自宅への外泊も積極的に行っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、家族様の意向も聞きながら、電話や手紙の支援を行っている。		いつでも気軽に電話がかけられるよう、所定位置へ電話の設置をしたり、ハガキやびんせん等をわかりやすい位置へ置く。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時にリビングや居室での談笑をゆっくりとして頂けるよう、又、面会時間の制限をしない等の工夫をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どこまでが拘束にあたるのかを正しく理解できていない職員も多く、全体として徹底して取り組んでいきたい。		拘束は物理的な方法や言葉でもできてしまう事を伝える為に勉強会を開催する等、理解と防止に今後も努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかける事なく開放した状態でケアにあたっている。		外へ行くのはあたりまえの行動と、職員全てが理解した上で行動を妨げる事なく支援にあたりたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自由に行きたい所へ行けるよう配慮しながら見守り支援を行っている。玄関ポーチを出るとセンサーが作動し、所在確認の目安として対応している。		玄関先の水やりだけでもセンサーが鳴り、それが長時間に及ぶ為に一時解除し、事故に繋がったことがあった。今後は更に見守りを課題とし、解除しないケアに努める。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	手続き記憶の大切さやその人らしさをふまえての管理を行い、安易にしまい込んだりしない保管、管理方法を行っている。		精神的に不安定な場合を除き、いつでも必要な時に必要な器具が使える環境の提供を継続していきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個人の状況をケア職員は十分把握するようにし、見守り、支援にあたっている。		所在確認は常に行い、万一の時は迅速な対応ができるよう、マニュアル作成と把握に努める。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員には行えていない。		今後は地域や市での講習会の参加を行い、又ホーム内で緊急時の勉強会を行う予定である。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や災害時での避難訓練は実施している。		実際におこった時にあわてないで行動できるようマニュアルを作成し把握に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時には必ず説明、理解を求める場を持ち、対応策に取り組んでいる。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常勤の看護職員を配置する事で、早期発見対応に繋がっている。	
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	手渡し内服の服薬確認を実施し、利用者より説明を求められた場合はわかりやすく説明にあたる。全体としてはできていない。	配薬や薬情の業務引き継ぎや勉強会を行い、全体が把握できるとともにスキルアップに繋がっていききたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	日中に軽い運動を取り入れ、乳製品を食事に提供する事で自然な排便に繋げる。排便確認の徹底が出来ておらず各個人のリズム把握が出来ていない。	
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の落ち着いた時間に洗面への誘導を行いケアにあたっているが、拒否が見られることもあり全体の取り組みとしては出来ていない。	定期的に歯科受診を行う等、口腔衛生管理を検討していききたい。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外にお茶の時間を設け、水分補給にあたるのと同時にテーブル上にポットを置き、いつでも飲水出来るように支援している。個別の食事量の調整も行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	玄関ホールや各ユニットにアルコール消毒液を設置。お願いの提示と面会者、外出時、食事の手洗うがいを促し予防に努める。		感染症に対するリスクを十分理解し、それぞれの症状や対策を職員が理解できるよう講習会へ参加する。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日調理用具等の消毒を行い、調理前には手洗い消毒を実施するとともに食材の安全管理を行う。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は常に開放し、花を植えたりプランターを置いている。玄関前にはベンチを設置しており、日当たりもよい事から入居者様のコミュニケーションの場となっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室、リビングは共用スペースである為清潔や照明にも配慮が必要である。個別性は求められないが、まぶしさや不快感を軽減できるよう工夫をしている。		時に応じて模様替えをしてみたり、利用者様の意見を取り入れ皆のすごしやすい環境づくりを心掛けたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各所にベンチや椅子、テーブルや座布団を置いたり個室対応で居場所を提供できるよう工夫している。		共用空間をより充実したものであるよう、検討中である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真等を持ち込んで頂き、落ちつ いた環境で過ごして頂けるよう共同で空間づくり を行っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	各居室には換気扇がついており、空調の管理を行 い湿温計を設置して、温度差にも注意を払ってい る。喫煙者がいる為空気清浄機設置している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	段差がなく、各ホール内には手すりを設置。車椅子 でもそのままトイレへ入れる為、開けばなし の状態にならないよう工夫されている。		トイレの高さが、小柄な人には合わず両足が床か ら離れたり、又洗面台が小さい為水はねで床が濡 れてすべる等危険である。対策を検討したい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	個人の持ち物やタンス等へわかりやすい印をつけ たり、説明文を提示する事で、出来る事の継続と 困惑を軽減できるよう工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	周辺には畑を設け、外周できるようスロープや デッキの整備をしている。		まだまだ整備途中である為、様々な活用法を検討 したい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

玄関や事務所など特に施錠せず、自由に入出できる環境づくりを行なっている。安全面ではセンサーを設置し、不意の利用者の外出に備えている。

「当たり前にしたいことが、当たり前出来る場所」を理念に掲げ、不定期な外出希望などに対応し、その人らしい生活を送る事が出来るよう配慮している。

職員にはお互いに注意し合うこと、注意される側は勇気を持って、注意される側は真摯な気持ちを持ってという事を周知し、お互いが意見を言い合える風通しの良い施設を目指している。

また、自由な発想を大切に、まずはやってみるという前向きな考えのもとに介護を行なっている。